

悼> 三好最高顧問

当社三好武夫最高顧問は5月26日午後9時20分急性心筋梗塞のため、東京女子医科大学病院にて逝去されました。ここに謹んでお悔みを申し上げます。葬儀および告別式は社葬をもって7月2日、東京・芝増上寺大殿においてとり行われました。

三好最高顧問を悼んで

社長 後藤 康男

本日茲に、安田火災海上保険株式会社最高顧問、元社長 故三好武夫殿の社葬を執り行うに当たり、謹んでご霊前にお別れの言葉を申し上げます。

三好最高顧問 あなたは5月26日夜9時20分、あまりにも卒然として、しかも眠るが如く安らかな大往生を遂げられました。逝去される3日前にはお元気で出社され、会社で昼食を共にしながらご高説をお伺いいたしましただけに、私たちは驚愕し、深い悲しみに淋しさで万感胸に迫り、寂寞^{せきぼく}の感を禁じ得ません。

顧みますれば、三好さんあなたは明治40年愛媛県松山市に誕生され、松山高等学校を経て、昭和5年東京帝国大学法学部をご卒業、同年わが社の前身である東京火災保険株式会社に入社されました。その後、昭和38年取締役社長に就任され、昭和55年まで17年の間、わが社社長として文字どおり全身全霊を打ち込んで社業発展のために心魂を傾けられました。引き続き、昭和58年まで取締役会長として、さらに取締役名誉会長、最高顧問として現在まで活躍されたのであります。

三好さんあなたは、安田火災にとって正に中興の祖であり、かけがえのない方でありました。また、豪放にして義理人情に厚く、社員誰しもが敬愛してやまない偉大な方でありました。安田火災は長い伝統を持っておりますが、現在のわが社の業容は三好社長の時代に著しく進展したのであります。あなたは社長に就任されるや、契約者サービスの向上のためには業界の多極化こそ必要であるとの理念のもとに、拡大均衡、積極経営を合言葉に、自動車保険へ

の積極進出、不動産政策の充実、人事面での実力主義の採用、社会の要請に応えた幾多の新保険の開発、事務の総合的機械化等々を決断実行され、わが社および損害保険業界に新風を吹きこまれました。また社長就任以前にも、当時困難であった戦争保険処理への貢献、戦後の会社分割の危機を乗り越え再建を果たした功績等々、顕著な実績を残されました。わが社はあなたの強力な指導力と優れた先見性と洞察力によって、幾多の苦難を克服し飛躍的發展を遂げたのであります。独立自尊の精神と失敗を恐れぬチャレンジ精神、社会への奉仕とお客様第一主義など、あなたが身をもって示された経営哲学は、今日の「安田火災スピリット」の中に会社の経営理念および全社員の行動基準として成文化され、脈々として永遠にわが社に引き継がれていくことでしょう。

三好さんあなたは私たちに素晴らしい本社ビルを残して下さいました。今を去る昭和42年、新宿新都心の土地の競争入札が行われた際、あなたは入札現場にご自身で赴かれその手で落札されました。地上43階地下6階の現在の安田火災本社ビルは、末広がりの特長ある外観とともに、防災思想と人間尊重思想に貫かれた超高層ビルとして、内外に広く知られております。もし三好社長がおられなかったら、新都心に聳^{そび}え立つこの本社ビルは実現しなかったであまりしょう。

三好さんあなたのご功績はわが社だけにとどまるものではありません。日本損害保険協会副会長として、また12年間にわたり自動車保険利率算定会理事長として、現在わが国で最大種目となった自動車保

逝く



険の普及に貢献、業界の発展に尽力されました。さらに経済界においては日本経営者団体連合会常任理事、経済団体連合会常任理事等の要職を歴任されました。このような多方面にわたるご功績により、藍綬褒章、勲二等瑞宝章、およびブラジル国からサンフランシスコ・デ・アシス大十字章が贈られ、またこの度は従四位に叙せられる光栄に浴されたのであります。

三好さん あなたの思い出はつきません。あなたは強い相手に対しては、より強く事に当たられました。が、弱い立場の人に対しては、常に深い思いやりを持っておられました。安田火災の社員が不幸にして事故や病気で亡くなった場合、その遺族がわが社で働いている例も幾多ありますが、「安田火災ファミリー主義」の一環としてこれを実行されたのも三好さんでした。また社員の健康には常に注意を払い、本社ビルに健康開発センターを設置し、企業内診療所としてはきわめて優れた近代医療設備をいち早く整えられたのもあなたでした。

三好さんあなたはこよなく郷土を愛されました。生まれ育った愛媛の自然と人情に深い愛着を持たれ、関東愛媛県人会の会長として故郷のために尽くされ

るとともに、愛媛県出身の財界の方々の集まりである「城山会」への出席を楽しみにして、大切にしてこられました。故郷からも数多くの弔意が寄せられていることをご報告いたします。

安田火災は2年後の昭和63年10月に創業100周年を迎えます。三好さんあなたは、それを何よりも楽しみにしておられました。そのあなた亡き今、100周年式典へのご出席もかなわず、安田火災100年の発展をその目で見ていただけなくなったことを思うと、正に断腸痛恨のきわみであります。私たちはこの深い悲しみの中で、仕事を愛し、人間を愛し、生涯を会社に捧げつくした三好さんの心をわが心として、輝かしい100周年を迎え、さらに新しい世紀に向かって全社員一致団結し、安田火災発展のために努力します。三好さん 私たちはあなたの偉業を受け継ぎそれを乗り越えて、安田火災を一層大きく優れた損害保険会社に成長発展させることをここに誓い申し上げます。どうか天上にあって、わが安田火災の将来を見守って下さい。

三好さん、安らかにお休み下さい。さようなら。

昭和61年7月2日

(社葬における弔辞を掲載しました。)

〔略 歴〕

明治40年2月27日 生まれ
昭和5年4月 東京火災保険株式会社入社
昭和31年6月 取締役人事部長
昭和38年1月 取締役社長
昭和55年7月 取締役会長
昭和58年2月 取締役名誉会長
昭和59年7月 最高顧問

〔主な公職〕

元日本経営者団体連盟常任理事
元社団法人日本損害保険協会副会長
元自動車保険料率算定会理事長
社団法人経済同友会顧問
財団法人安田火災美術財団理事長
財団法人安田火災記念財団理事長

〔褒 章〕

昭和45年10月 藍綬褒章
昭和48年11月 サンフランシスコ・デ・アシス大十字章
昭和52年4月 勲二等瑞宝章
昭和61年6月 従四位